

目面靖浩

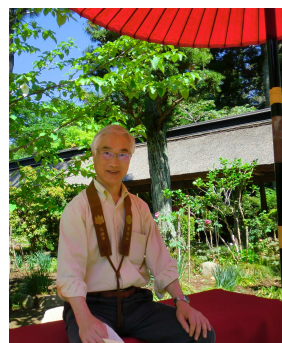
に掛けられている扁額である。この扁額は江戸時代初期に中国から渡来した禅僧「東臯心越（トウコウシンエツ）」筆で大雄寺に寄進されたものである。東臯心越禪師は日本国内を旅し、特に水戸藩の徳川光圀と親交が深かったとの記録が残されている。大雄寺に來山



したのは、今から三百年前の元禄六年（一六九三年）七月、心越五十五歳の時である。「靈鷲（リョウジュ）」とは、釈迦が多くの説法をした山として知られる「靈鷲山（リョウジュセン）」からきていると思われる。また、心越禪師は故郷である中国の永福寺の飛來峰（ヒライホウ）を「靈鷲山」とも呼んでいた。おそらく、大雄寺の伽藍と故郷である永福寺の飛來峰を重ね合わせ、書いたものと思われる。

大雄寺
住職談

今回のお話しは、平田さんからご指名の山口さんにお聞きしました。



初夏の陽爽やか。

Q 1；坐禅会に参加のきっかけはなんでしたか？

に連れて来た時、坐禅会があるのを知り、初参加の時にご住職や初代会長の平田さんの暖かい歓迎を受けた事が今まで続いているきっかけです。

満員御礼

八月開催の”夏休み子ども寺スクール”（大雄寺主催）は、おかげさまで定員を満たし、キャンセル待ちの状況です。雄禅会の面々もいそいそと準備中。今年の修行は、どんな体験が出来るか楽しみです。

Q 2 ; お住まいは、どちらですか？参加されて何年ですか？

A 2 ; 茨城県ひたちなか市です。車で二時間です。参加して十年になります。

Q 3 ; 座禅をしていかがですか？

A 3 ; 自分が救われる気がします。心の隠れ家のような感じです。

Q 4 ; 参加されていての感想は、いかがですか？

A 4 ; 私という者をお寺さんが受け入れてくれる事が嬉しいです。来る度にお寺、人、雰囲気、癒されて感謝しています。

山口さん、ありがとうございます。似合いました。初夏の陽が照らしていました。初夏の陽が照らしていたように、笑顔です。

初めての座禅・体験談

お子さん二人（兄弟）を
連れて朝の坐禅会に初参
加。感想をお聞きしまし
た。

「普段の日常では過ごせない」静かで落ち着いた時間”を過ごせました。「ありがとうございます、お子さんたち、楽しそうに回廊の雑巾がけをしていましたね。どうぞまた、ご参加下さいませ。」



受付けのお三方
お客様満員で
嬉しいですね。

五月十二日、牡丹コンサート終了しました。初夏の陽と鳥たちのさえずりをバックにしてテノールの歌声と詩の朗読により懐かしい時へと誘われました。雄禅会の皆様のお手伝いも和氣藹々と楽しまれていました。

